

2010年「改定常用漢字表」対応

新聞用語集

追補版

新聞用語懇談会編

日本新聞協会

目次

新聞常用漢字表	3
本表（追加・改定分）	6
付表（追加・改定分）	16
用字用語集	17
使用上の注意と手引	17
用字用語集（追加・改定分）	21

改定常用漢字表に関する編集委員会の申し合わせ

平成二十二年七月十五日

文化審議会が平成二十二年六月に答申した改定常用漢字表は、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安となることを目指す現行常用漢字表の趣旨を引き継ぎつつ、情報機器の使用が一般化・日常化している現在の文字生活の実態などを理由に、多くの漢字（字種・音訓）を追加した。

新聞・通信・放送各社は、国語表記の基準としての常用漢字表を尊重するとともに、新しく加えられた字種に関しては、学校教育などでまだ十分に学ばれていない現状を考慮し、読みが難しく、意味がとらえにくいと判断したものについては当面、読み仮名を付ける、言い換えるといった配慮を加えることを申し合わせた。

常用漢字表が内閣告示されて以降、新聞・通信・放送各社が日常使用する用語については、新聞用語懇談会において当漢字表を精査、検討して定めた「新聞用語集」をよりどころとして表記することを原則とする。報道界はその活動を通じて、正確で分かりやすい日本語の普及に努めていく。

以上

まえがき

二〇〇五年三月三十日の文部科学大臣諮問に端を發する常用漢字表改定作業は二〇一〇年六月七日に文化審議会答申が出され、一応の決着をみた。新聞用語懇談会では新たに追加された字種・音訓の扱いにつき検討を重ねてきたが、内閣告示を控え、その結果を反映させた現行新聞常用漢字表及び用語集の追加・変更部分を追補版として刊行する。「新聞用語集二〇〇七年版」と併せ利用していただきたい。

二十九年ぶりに改定された常用漢字表は、百九十六字が追加、五字が削除され、合計二千百三十六字となった。新たに追加された中には難読と思われる字種も含まれている。そのため、新聞協会では独自に大学生を中心にした読み調査を実施、日本放送協会放送文化研究所による高校生を対象とした同種調査とあわせ分析し、その正解率を根拠として、当面、読み仮名を付けて対応する字種、熟語を選定した。

難読の字以外にも、造語力の少ない字種、仮名書きが定着しているとみられる熟語などは、仮名書きの余地を残すこととした。また、同訓異字、代用字の処理につき、新規に採用された字種・字訓と、現行常用漢字との調整が必要になったケースも少なくない。混乱を生じないよう、統一基準を提案している。

これらは、各社の用語使用を縛るものではない。記事・番組の内容・性格によっても扱いは変わってくるだろう。趣旨を理解の上、柔軟に対応していただきたい。

追加された漢字はまだ学校で学ばれておらず、それらの字種を使った熟語の用法や同音語、類義語との

使い分けなど確定されていない点も多い。今後、字種追加に伴って新たな表記のゆれが生じ、改めて協議すべき事例も起こるだろう。いずれ、この追補版をさらに検討し直して「新聞用語集二〇〇七年版」と合体し、さらに全体を精査した用語集を作成する予定である。改善点、疑問点、追加事項案など、寄せていただければ幸いだ。

◎本書の使用字体について

追補版では、常用漢字については二〇一〇年「常用漢字表」に使われている字体、常用漢字以外の漢字は原則として「表外漢字字体表」の印刷標準字体または同表所載の「人名用漢字の字体一覧」に掲げられた字体を使用した。

また、「しんにゅう／しょくへん」については、許容字体「遜・遡・謎・餌・餅」の五字も「新聞常用漢字表」に掲げた。これらを含め、字体の使用基準は各社により違いがあり、本書の基準は各社の字体を拘束するものではない。

二〇一〇年十一月十八日

新聞常用漢字表（追加・改定分）

一、この「新聞常用漢字表（追加・改定分）」は、「本表」と「付表」とから成る。

二、「本表」には、二〇一〇年改定「常用漢字表」のうち一九八一年「常用漢字表」に追加された百九十六字種と、読みが追加・変更・削除された三十二字のほか、新聞用語懇談会が扱いを変更した四字、表外字だが使用することを決めた五字、表外音訓だが使用を決めた三字の字体と音訓を示した。

新聞用語懇談会は「常用漢字表」中の七字は使用しないことを決めているが、この分も掲げている。

三、「付表」は、当て字や熟字訓など一字一字の音訓としては挙げにくい語を掲げたもので、二〇〇七年版「新聞用語集・付表」への追加分、変更分を示した。

使用上の注意

A 全ての音訓を見出し語として漢字の上に掲げ、これを五十音順に配列、見出し語以外の音訓は漢字の下に示した。したがって、一つの音または訓を引けば、その漢字に認められている全ての音訓を知ることができる。

ただし、同一の漢字が並んだ場合には、見

出し語以外の音訓は省略した。

B 字音は片仮名、字訓は平仮名で示した。

C 太字は、送り仮名を示す。

例 つぶす 潰 つぶれる カイ

記号例等

行頭・印 新たに追加された漢字百九十六字の

音訓読み。

行頭無印 二〇一〇年改定で音訓の変更、追加、

削除があった字種。丸括弧内にその内容を

示した。

○ 常用漢字表の表外字だが、新聞用語懇談会
が使用を決めた五字。

磯(いそ) 絆(きずな) 哨(シヨ)

ウ) 疹(シン) 胚(ハイ)

□ 常用漢字表の表外音訓だが、同懇談会が使

用を決めた三音訓。

あかす(証) とり(鶏) コウ(虹)

〔注〕駒には訓読み「こま」しかな

いが、「産駒」サンク」を慣用表

記として認める。二〇〇一年以降

使用していた字種のうち鶴(カ

ク) 脇(キヨウ) 柿(シ) 嵐(ラ

ン) は、字種は常用漢字表に入っ

たが、音読みが認められなかった

ためルビ扱いとなる。

■ 常用漢字表にある字種だが、同懇談会が使

用しないことを決めた七字。

虞 且 遵 但 朕 附 又

* いわゆる「教育漢字」で、小学校学習指導

要領の「学年別漢字配当表」に示されてい

るもの。

例 かかわる *関 せき カン

(傍線) 特殊な音訓、または用法のごく狭い音訓。

例 ガ 牙ゲ きば

つま 爪 つめ

参考

一九八一年常用漢字表から削除された字種

勺 錘 銑 脹 匆

〔注〕「銑」は「銑鉄」の語を〔特〕で使用する。他に新しく〔特〕で使用する語は「貫禄」「肛門」「蘇生」「挽回」。

一九八一年常用漢字表から削除された音訓

畝(せ) 疲(つからす) 浦(ホ)

一九八一年常用漢字のうち用語懇談会が扱いを

変更した字種

新しく使用する字種 〓 謁 箇 濫 (〔汜濫〕に限定)

音読みの廃止 〓 個 (カ)

本表 (追加・改定分)

ア・あゝオ・お

・アイ 挨
 ・アイ 暖
 ・あい 藍 ラン
 □あかす *証 シヨウ
 ・あきらめる 諦 テイ
 ・あご 顎 ガク
 ・あこがれる 憧 シヨウ
 ・あざける 嘲 チヨウ
 ・あてる 宛 コン
 ・あと 痕
 ・あやしい 妖 ヨウ
 ・あらし 嵐

イ *委 ゆだねる
 (訓読み「ゆだねる」追加)
 ・イ 畏 おそれる
 ・イ 萎 なえる
 ・イ 椅
 ・イ 彙
 いえる 癒 いやす ユ
 (訓読み「いえる・いやす」追加)
 いき 粹 スイ
 (訓読み「いき」追加)
 イク *育 そだつ そだて
 る はぐくむ
 (訓読み「はぐくむ」追加)

いく 逝 ゆく セイ
 (訓読み「いく」追加)
 いそ 磯
 ・いばら 茨
 いやす 癒 いえる ユ
 (訓読み「いえる・いやす」追加)
 いる *要 かなめ ヨウ
 (訓読み「かなめ」追加)
 ・いる 煎 セン
 ・イン 咽
 ・イン 淫 みだら
 ・うす 白 キユウ
 ・うた 唄
 ・ウツ 鬱
 うね 畝
 (訓読み「せ」削除)
 うら 浦
 (音読み「ホ」削除)
 ・うらやましい 羨 うらやむ セン

・うらやむ

羨

・え

餌・餌 えさ ジ

えがく

描 かく ビヨウ

(訓読み「かく」追加)

・えさ

餌・餌 え ジ

エツ

調

(不使用印■削除)

・エン

怨 オン

・エン

媛

・エン

艶 つや

オウ

*応 こたえる

(訓読み「こたえる」追加)

・オウ

旺

・おか

岡

・オク

臆

・おそれ

■虞

・おそれる

畏 イ

・おほれる

溺 デキ

・おれ

俺

・オン

怨 エン

カ・か く コ・こ

・カ

苛

カ

箇

(不使用印■削除)

・か

鹿 しか

・ガ

牙 ゲ きば

・ガ

瓦 かわら

・カイ

楷

・カイ

潰 つぶす つぶれる

・カイ

諧

・ガイ

崖 がけ

・ガイ

蓋 ふた

・ガイ

骸

・ガイ

*関 せき カン

かかわる

(訓読み「かかわる」追加)

・かき

柿

・かぎ

鍵 ケン

かく

描 えがく ビヨウ

(訓読み「かく」追加)

・かぐ

嗅 キユウ

・ガク

顎 あご

・がけ

崖 ガイ

・かける

賭 ト

・かご

籠 こもる ロウ

・カツ

葛 くず

カツ

滑 コツ すべる

(音読み「コツ」追加)

■且

かつ

■且

かなめ

*要 いる ヨウ

(訓読み「かなめ」追加)

・かま

釜

・かま

鎌

・かめ

亀 キ

からまる 絡 からむ からめ

る ラク

からむ

絡

からめる

絡

(訓読み「からめる」追加)

がわ

*側 ソク

(訓読み「かわ」を「がわ」に変更)

かわら

瓦 ガ

カン

*関 せき かかわる

(訓読み「かかわる」追加)

カン

*館 やかた

(訓読み「やかた」追加)

カン

韓

カン

鑑 かんがみる

(訓読み「かんがみる」追加)

ガン

玩

かんがみる

鑑 カン

(訓読み「かんがみる」追加)

キ

伎

キ 亀 かめ

キ

毀

キ

織

きずな

○絆

きば

牙 ガゲ

キユウ

白 うす

キユウ

嗅 かく

きる

斬 ザン

キン

巾

キン

僅 わずか

キン

錦 にしき

グ

惧

くさい

臭 におう シユウ

(訓読み「におう」追加)

くし

串

くず

葛 カツ

クツ

窟

くま

熊

ゲ

牙 ガ きば

ケイ 詣 もうでる

ケイ

憬

ケイ

稽

ケイ

鶏 にわとり

ゲキ

隙 すき

けた

桁

ける

蹴 シユウ

ケン

拳 こぶし

ケン

鍵 かぎ

ゲン

舷

コ

*個

(音読み「カ」削除)

コ

股 また

コ

虎 とら

コ

鋼

コ

勾

コウ

虹 にじ

コウ

梗

コウ

梗

サ・さくソ・そ

・コウ 喉 のど
 ・こう 乞
 ・ゴウ 傲
 こたえる *応 オウ
 コツ (訓読み「こたえる」追加)
 滑 カツ すべる
 なめらか
 (音読み「コツ」追加)
 ・こぶし 拳 ケン
 ・こま 駒
 こむ *混 まじる まざる
 まぜる コン
 (訓読み「こむ」追加)
 ・こもる 籠 かご ロウ
 ・ころ 頃
 コン *混 まじる まざる
 まぜる こむ
 (訓読み「こむ」追加)
 ・コン 痕 あと

・サ 沙
 ・ザ 挫
 ・サイ 采
 ・サイ 塞 ソク ふさぐ
 ふさがる
 ・さい 埼
 さかのぼる 遡・遡 ソ
 ・サク 柵
 ・さげすむ 蔑 ベツ
 ・サツ 利 セツ
 ・サツ 撈
 ・さわやか 爽 ソウ
 ・ザン 斬 きる
 *私 わたくし わたし
 ・シ 恣
 (訓読み「わたし」追加)

・シ 摯
 ・ジ 餌・餌 えさ え
 ・しか 鹿 か
 ・しかる 叱 シツ
 ・シツ 嫉
 ・シユ 腫 はれる はらす
 ・ジュ 呪 のろう
 シユウ 臭 くさい におう
 (訓読み「におう」追加)
 ・シユウ 袖 そで
 ・シユウ 羞
 ・シユウ 蹴 ける
 ジユウ *中 チユウ なか
 (音読み「ジユウ」追加)
 シユン 旬 ジユン
 ジユン 旬
 (音読み「シユン」追加)
 ジユン ■遵

シヨウ ○哨
 シヨウ *証 □あかす
 シヨウ 懂 あこがれる
 シヨク 拭 ふく ぬぐう
 しり 尻 尻
 シン 伸 のびる のばす
 のべる
 (訓読み「のべる」追加)
 シン 苾
 シン 振 ふる ふるう
 ふれる
 (訓読み「ふれる」追加)
 シン ○疹
 ジン 腎
 ス 須
 スイ 粹 いき
 (訓読み「いき」追加)
 すき 隙 ゲキ
 すそ 裾

すべて *全 まったく ぜん
 (訓読み「すべて」追加)
 すべる 滑 なめらか カツ
 コツ
 (音読み「コツ」追加)
 すみやか *速 はやい はやめ
 る はやまる
 ソク
 (訓読み「はやまる」追加)
 セイ 凄
 セイ 逝 ゆく いく
 (訓読み「いく」追加)
 セイ 醒
 セキ 脊
 セキ 威
 せき *関 かかわる カン
 (訓読み「かかわる」追加)
 セツ 拙 つたない
 (訓読み「つたない」追加)

セツ 刹 サツ
 セン 煎 いる
 セン 羨 うらやむ うら
 やましい
 セン 腺
 セン 詮
 セン 箋
 ゼン *全 まったく すべ
 て
 (訓読み「すべて」追加)
 ゼン 膳
 ソ 狙 ねらう
 ソ 遡・遡 さかのぼる
 ズ 曾 ソウ
 ソウ 曾
 ソウ 爽 さわやか
 ソウ *創 つくる
 (訓読み「つくる」追加)
 ソウ 瘦 やせる

・ソウ 踪 とらえる
 ・ソク 捉 はやい はやめ
 ソク *速 はやい はやめ
 る はやまる
 すみやか
 (訓読み「はやまる」追加)
 ソク *側 がわ
 (訓読み「かわ」を「がわ」に変更)
 ・ソク 塞 サイ ふさぐ
 ふさがる
 そだつ *育 そだてる はぐ
 くむ イク
 そだてる *育
 (訓読み「はぐくむ」追加)
 ・そで 袖 シユウ
 ・ソン 遜・遜

タ・たゝト・と

タ *他 ほか
 (訓読み「ほか」追加)
 ・タ 汰
 ・ダ 堆 つば
 ・タイ 戴
 ・タイ *類 ルイ
 たぐい
 (訓読み「たぐい」追加)
 ただし ■但 誰
 ・だれ
 ・タン 旦 ダン
 ・タン 綻 ほころびる
 ・ダン 旦 タン
 ・チ 綴
 ・チ *中 ジユウ なか
 チユウ
 (音読み「ジユウ」追加)
 チユウ 耐

・チヨウ 貼 はる
 ・チヨウ 嘲 あざける
 ・チヨク 擗
 チン ■朕
 ・ツイ 椎
 つかれる 疲 ヒ
 (訓読み「つからす」削除)
 つくる *創 ソウ
 (訓読み「つくる」追加)
 つたない 拙 セツ
 (訓読み「つたない」追加)
 つとまる *務 つとめる ム
 つとめる *務
 (訓読み「つとまる」追加)
 つば 唾 ダ
 つぶす 潰 つぶれる カイ
 つぶれる 潰
 つま 爪 つめ
 つめ 爪

・つや	艶	エン
・つる	鶴	あきらめる
・テイ	諦	おほれる
・デキ	溺	
・テン	墳	
・ト	妬	ねたむ
・ト	賭	かける
・トウ	藤	ふじ
・ドウ	瞳	ひとみ
・とち	栃	
・とら	虎	コ
・とらえる	捉	ソク
□とり	鶏	にわとり
・トン	頓	ケイ
・ドン	貪	むさぼる
・どん	井	どんぶり
・どんぶり	井	

ナ・な／ノ・の

・ナ	那	
・ナ	奈	
・なえる	萎	イ
なか	*中	チュウ
	ジユウ	ジュウ
なし	梨	
・なぞ	謎・謎	
・なべ	鍋	
なめらか	滑	すべる
	カツ	
	コツ	
（音読み「コツ」追加）		
・におう	匂	
におう	臭	くさい
	シユウ	
（訓読み「におう」追加）		
・にじ	虹	ロコウ
にしき	錦	キン
にわとり	鶏	□とり
	ケイ	

ハ・は／ホ・ほ

・ぬぐう	拭	ふく
・ねたむ	妬	ト
・ねらう	狙	ソ
・ネン	捻	
・のど	喉	コウ
・ののしる	罵	バ
のぼす	伸	のびる
のびる	伸	のびる
のべる	伸	のべる
（訓読み「のべる」追加）		
・のろう	呪	ジュ
・ハ	罵	ののしる
ハイ	○胚	
はがす	剥	はぐ
	はげる	はがれる
	ハク	

・はがれる 剝
 ・ハク 剝
 ・はぐ 剝
 はぐくむ *育 そだつ そだて
 (訓読み「はぐくむ」追加) る イク
 ・はげる 剝 はがす はぐ
 はがれる ハク
 ・はし 箸
 ・はち 蜂 ホウ
 はなす *放 はなつ はなれ
 る ほうる ホ
 ウ
 はなつ *放
 はなれる *放
 (訓読み「ほうる」追加)
 はやい *速 はやめる はや
 まる すみやか
 ソク

はやまる *速
 はやめる *速
 (訓読み「はやまる」追加)
 ・はらす 腫 はれる シュ
 ・はる 貼 チヨウ
 ・はれる 腫 はらす シュ
 ・ハン 汎
 ・ハン 阪
 ・ハン 斑
 ・ハン 疲 つかれる
 ヒ
 (訓読み「つからす」削除)
 ・ビ 眉 ミ まゆ
 ・ひざ 膝
 ・ひじ 肘
 ・ひとみ 瞳 ドウ
 ビヨウ 描 えがく かく
 (訓読み「かく」追加)
 フ
 ■ 附

・フ | 阜
 ・フ 訃
 ・ふく 拭 ぬぐう シヨク
 ・ふさがる 塞 ふさぐ サイ
 ・ふさぐ 塞 ソク
 ・ふじ 藤 トウ
 ・ふた 蓋 ガイ
 ・ふもと 麓 ロク
 振 ふるう ふれる
 シン
 ふるう 振
 ふれる 振
 (訓読み「ふれる」追加)
 ・ヘイ 蔽
 ・ヘイ 餅・餅もち
 ・ヘキ 壁
 ・ベツ 蔑 さげすむ
 ・ホ 哺

ホウ *放 はなす はなつ

はなれる ほう

る

(訓読み「ほうる」追加)

・ホウ 蜂 はち

・ポウ 貌

ほうる *放 はなす はなつ
はなれる ホウ

(訓読み「ほうる」追加)

・ほお 頬

ほか *他 タ

(訓読み「ほか」追加)

・ボク 陸

・ほころびる 綻 タン

・ボツ 勃

マ・まゝモ・も

・マイ 味

・まくら 枕

まざる *混 まじる まぜる

こむ コン

まじる *混

まぜる *混

(訓読み「こむ」追加)

また ■又

また 股 コ

まったく *全 すべて ゼン

(訓読み「すべて」追加)

・まゆ 眉 ビ ミ

・ミ 眉

・みだら 淫 イン

・ミツ 蜜

・ミヨウ 冥 メイ

ム *務 つとめる つと
まる

(訓読み「つとまる」追加)

・むさぼる 貪 ドン

・メイ 冥 ミヨウ

・メン 麵 ケイ

・もうでる 詣 ケイ

・もち 餅・餅 ヘイ

・もてあそぶ 弄 ロウ

ヤ・やゝヨ・よ

・ヤ 治

・や 弥 カン

やかた *館 カン
(訓読み「やかた」追加)

・やせる 瘦 ソウ

・やみ 闇

・ユ 諭

ユ 癒 いえる いやす
(訓読み「いえる・いやす」追加)

ユ

ユウ 湧 わく

ユウ 逝 いく セイ

ゆく

(訓読み「いく」追加)

ゆだねる *委 イ

(訓読み「ゆだねる」追加)

・ヨウ 妖 あやしい

ヨウ *要 いる かなめ

(訓読み「かなめ」追加)

・ヨウ 瘍

・ヨク 沃

ラ・らゝロ・ろ

・ラ 拉

ラク 絡 からむ からま
る からめる

(訓読み「からめる」追加)

・ラツ 辣

ラン 濫

(不使用印 ■ 削除)

・ラン 藍 あい

・リ 璃

・リツ 慄

・リヨ 侶

・リヨウ 瞭

・ル 瑠 瑠

ルイ *類 たぐい

(訓読み「たぐい」追加)

・ロ 呂

・ロ 路

・ロウ 弄 もてあそぶ

・ロウ 籠 かご こもる

・ロク 麓 ふもと

ワ・わ

・わき 脇

・わく 湧 ユウ

・わずか 僅 キン

わたくし *私 わたし シ

わたし

*私 (訓読み「わたし」追加)

付 表 (追加・改定分)

以下に挙げられている語を構成要素の一部とする熟語に用いても構わない。

例 河岸—魚河岸 居士—一言居士

☆印は、新聞用語懇談会が特に使用を認めた、いわゆる慣用語表記。

あま	海女、海士	こじ	居士
	(「海士」を追加)		(「一言居士」を変更)
かあさん	母さん	さつき	五月
	(「お母さん」を変更)		(「五月晴れ」を変更)
かじ	鍛冶	☆さんく	産駒〔競馬〕
かたず	固唾	しっぱ	尻尾

しにせ 老舗

とうさん 父さん

(「お父さん」を変更)

まじめ 真面目

やよい 弥生

〔注〕従来付表にあった「垣

間見る」「神無月」「生粹」

「目配せ」は、音韻の変化

と判断して「用字用語集」

に移動。

用字用語集（追加・改定分）

使用上の注意と手引

一、ここに掲げた用字用語は代表的な例示であつて、それ以外の表現が使えないという意味ではない。書き換え・言い換え語の中には、同義語だけでなく、文脈によつて使える類似する意味の語を示した場合もある。したがつて、実際に使用する場合には、「新聞常用漢字表」を活用して、文脈に応じ、適切な表現を工夫することが必要である。

二、書き換え・言い換え・表現の工夫が困難な場合は読み仮名を付けて使うことができる。漢語熟語の漢字と仮名の交ぜ書きは、定着して

いると見られるものを除いて、できるだけ避ける。

三、用語例中、漢字書きにしてあるものは、仮名書きにしてもよい。また、平仮名書きのものは片仮名書きにしてもよいが、逆に仮名書きのものを漢字で、片仮名のものを平仮名で書かないことを原則とする。

凡例

1 この「用字用語集（追加・改定分）」には、次のような語例（表記例）を載せた。

▽主として二〇一〇年「常用漢字表」のうち、従来の常用漢字に追加された百九十六字を含む語の用例と、二十八字に追加された音訓読

みの用例、「常用漢字表」の表外字・表外音訓だが、新聞用語懇談会が使用することを決めた漢字と熟語

▽同音異義語・同訓異字の使い分け

▽誤表記・誤用の語句の正しい用法

▽複数の表記を持つ語の標準的表記

▽甚だしい当て字と見られるものの仮名書き

▽当て字や熟字訓などを含む「慣用表記」

2 見出し語は「現代仮名遣い」による平仮名で、五十音順に並べた。ただし、外来語に属するものは片仮名を用い、長音符号(ー)はその前の字の母音の位置に配列した。

3 「用字用語」は、次の記号を用いて、おおむね別掲のような形式と記号で示した。

() 見出し語の下、または同音異義語・同訓異字の項の括弧内は、原則として使わない語。

例 さばく(沙漠) ↓砂漠

表記例の上や下の括弧内は、その語に加え

たり、置き換えたりして使用できる語。

例 ほにゆう 哺乳(動物・瓶・類)

↓ 使つてよい表記を示す。

例 いしゆく(委縮) ↓萎縮

甚だしい当て字と認められるものの仮名書き例。

例 とんちんかん(頓珍漢) ↓とんちんかん

複数の表記のうち比較的慣用度が高いと認められる方を使うもの。

例 がんめい(頑冥) ↓頑迷
〔 〕 見出し語(主として使い分けの語)の大意、説明、注記などを示す。

例 ほそく 補足(不足を補う) 補

足して説明する

例 捕捉(とらえる) 意図を捕捉する

〔 〕 用例の大意、説明、注記などを示す。

例 いや 〓 (否) ↓いや 「否定」い

やが応でも 〈どうして

も〉

〓 (弥) ↓いや 「いよいよ」

いやが上にも 〈ますます

す〉

― 用例・派生語、別の表記・読み方など簡単な注記を示す。

例 ぜん 膳―陰膳、配膳

ずがいこつ 頭蓋骨―「とうがい

こつ」とも

ルビ「常用漢字表」の表外字・表外音訓を含む語

にルビが付けてあるものは、読み仮名を付けて使う語。

例 きようそく (脇息) ↓脇息きょうそく

【形式と記号】

△ 「常用漢字表」の表外字。

例 せんさく (穿鑿[△]) ↓詮索、細かく

調べる、探る

● 「常用漢字表」の表外音訓。

例 まだら (斑[●]) ↓まだら―まだら模

様

◎ 国語審議会「同音の漢字による書きかえ」の語。

例 ほうかい (崩潰) ↓◎崩壊

■ 表内字だが、新聞用語懇談会が使わない

ことを決めた字。

例 ふせん (附箋) ↓付箋

▲ 誤った表記と認められるもの。

例 ざせつ (座折) ↓挫折

① 表内字、表内音訓だが、新聞用語懇談会が難読と判断、当分ルビ付きが望ましいと

決めた字または熟語。

例 しゃへい 覆う、遮る、^ル遮蔽

◆ 表内字、表内音訓だが、新聞用語懇談会が難読または仮名書きの習慣も定着していると判断、仮名書きを併記したもの。

例 しょせん ◆ 所詮・しょせん

⑧ 二つ以上の表記があるうち、その一方を統一的に使うもの。

例 あてじ (宛て字) ↓^統当て字

|| 同音異義語・同訓異字の使い分けを示す。

例 うた

|| 歌 (一般用語。歌謡、曲のついた

歌詞、和歌) 歌合わせ、歌声、歌心

|| 唄 (限定用語。邦楽・民謡など。動

詞には使わない) 小唄、地唄、長唄

注 「」の中に掲げた語の定義。

一般用語―広く一般に使われている用語

限定用語―使用範囲が限定的で狭い用語

○ 表外字だが、新聞用語懇談会が使用を認めた字。

例 いそ (磯) ↓磯―磯釣り

□ 表外音訓だが、新聞用語懇談会が使用を認めた字。

例 こうさい (虹彩) ↓虹彩

⑨ 表外字を含んでいるが、新聞用語懇談会が使用することを認めた特別な語。

例 そせい (蘇生) ↓^特蘇生

⑩ 表外音訓を含む熟語、熟字訓などで、いわゆる「慣用表記」として使用を認めた語

〔「新聞常用漢字表」の「付表」の語〕。

例 さんく (價産駒) [競馬]

* 音読みまたは訓読みする場合には使つてよい表記。

例 あんや (*闇夜) ↓[○]暗夜

⑪ 文部科学省が制定した学術用語。

例 ぼうちよう (膨脹) ↓^学膨脹

あ

あい 藍―藍色、藍染め

あいがん 愛玩(動物)

あいごま(間駒) ↓合駒〔将棋〕

あいさつ(挨拶) ↓あいさつ

〔注〕表記習慣で漢字書きも。

あいまい ◆曖昧・あいまい、あ

やふや、不確実

あきらめる 諦める

あくば 悪罵、毒づく、悪口(を

言う)

あくらつ 悪質、あくどい、㊦悪

辣

あご ◆顎・あご

あこがれる(憬れる) ↓憧れる

あざける ◆嘲る・あざける―嘲

り・あざけり(を受ける)

あざわらう(嘲笑う) ↓あざ笑う

あて 宛て―知人宛ての手紙、宛

先、宛名

あてがう(宛行う) ↓あてがう―

あてがいぶち

あてじ(宛て字) ↓㊦当て字

あてる

|| 充てる〔充当〕教材に充てる、

建築費用に充てる、抵当に充

てる、保安要員に充てる

|| 当てる〔接触、的中、配分、

相当〕当て馬、当てが外れる、

当て事、当て込む、当て字、

当てはめる、当て身、風に当

てる、心当て、日光に当てる、

的に当てる、胸に手を当てる、

割り当てる

|| 宛てる〔手紙など〕恩師に宛

あと

てて手紙を書く、母に宛てた
手紙、本社に宛てられた書類

|| 後〔先・前の対語。後続〕後

味、後追い、後押し、後が絶

える、後片付け、後がない、

後釜、後腐れ、後始末、後に

なり先になり、後の祭り、後

払い、後回し、後戻り、後を

絶たない(後続)、後を頼む、

後を引く

|| 跡〔物事の行われたあと。相

続。行跡〕足跡、跡形もない、

跡取り、跡目相続、跡を絶つ

〈消息〉、苦心・努力の跡、立

つ鳥跡を濁さず、犯行の跡

|| 痕〔くつきり残ったあと。主

として人体〕手術・注射・や

けどの痕、戦争の傷痕、台風の爪痕、血の痕

〔注〕「跡」か「痕」か迷う場合

合は「跡」を使う。

あま ①海女、②海士

あまごい 雨乞い

あやしい

|| 怪しい「奇怪、不気味、不安、異様」

怪しい人影、彼の日本語は怪しい、挙動が怪しい、空模様が怪しい

妖しい「妖艶、神秘的」妖しい魅力、妖しく輝く瞳

あやしむ 怪しむ—警官に怪しまれる

あらし 嵐—砂嵐

あんや (*闇夜) ↓◎暗夜

い

いえる 癒える

いがい 遺骸、遺体、亡きがい

いかいよう 胃潰瘍

いき 粹—粹がる、粹筋

いく

|| 行く「本動詞。実質的な意味を持つ場合」

行き帰り、行き先、大阪へ行く、去って行く

|| いく「補助動詞。実質的な意味が薄れた場合」

うまくいく、減合点がいく、消えていく、減っていく、満足がいく

|| 逝く「亡くなる」

多くの人に惜しまれながら逝った、ぽっ

くり逝く

〔注〕「ゆく」とも。「ゆく」よ

り口語的。

いけい 畏敬(の念)

いしゆく(委縮) ↓萎縮

〔注〕おそれ入ってかしこまる意では「畏縮」も。

いす ◆椅子・いす

いそ(磯) ↓磯—磯釣り

いただく

|| (戴) ↓頂く「のせる、「もらう」の謙讓語」

頂き物、賞状を頂く、雪を頂く山

|| いただく「補助動詞(〜してもらう)、「食べる」の謙讓語(ご飯を)いただきます、

お話しいただき、お読みいただく、見ていただく

いちげんこじ 一言居士

いちもくりようぜん 一目瞭然

いっしゅう 一蹴—挑戦者を一蹴

する

いったん ◆一旦・いったん、一

時、一度

いばら (茨、棘、荊) ↓イバラ

〔植物〕—いばらの道

〔注〕「茨」は固有名詞のみに使う。

いふ 畏怖—畏怖の念を抱く

いや

Ⅱ (厭) ↓嫌〔きらい〕嫌々ながら、嫌がらせ、嫌気が差す、嫌というほど

Ⅱ (否) ↓いや〔否定〕いや応

なしに、いやが応でも(どうして)も、いやも応もなく

〔無理やり〕

Ⅱ (弥) ↓いや〔いよいよ〕い

やが上にも(ますます)

いやす 癒やす—癒やし

いる (炒) ↓煎る—肝煎り、コ

ーヒー豆を煎る、ゴマを煎る

いんうつ 陰鬱、陰気、うつとう

しい

いんこう 咽喉

いんこう 淫行

いんせき 姻戚

いんとう 咽頭

いんぺい 隠匿、隠す、(ル)隠蔽

う

うげん 右舷

うす 白—石白

うずたかい (堆い、うず高い) ↓

うずたかい

うた

Ⅱ 歌〔一般用語。歌謡、曲のつ

いた歌詞、和歌〕歌合わせ、

歌声、歌心、歌を歌う、子守

歌、舟歌、万葉集の歌

Ⅱ 唄〔限定用語。邦楽・民謡な

ど。動詞には使わない〕小唄、

地唄、長唄、端唄、馬子唄

うたう

Ⅱ 歌う〔一般用語。詩や歌などをうたう〕歌い手、悲しみを

詩に歌う、情感を歌い上げる、

鳥が歌う、流行歌を歌う

Ⅱ 謡う〔限定用語。謡曲など〕

謡曲「高砂」を謡う

Ⅱ (謳) ↓うたう〔強調する〕

うたい文句、効能をうたう、

条文の中うたう

|| (唄) ↓うたう—小唄をうたう

うつ ◆鬱・うつ (状態)

うつけつ ◆鬱血・うつ血

うつせき 鬱積、内に◆籠もる・

こもる、(不平・不満が) 積もる

うつとうしい (鬱陶しい) ↓うつ

とうしい

うつびよう ◆鬱病・うつ病

うなどん (鰻[△]井) ↓うな井

うらみ

|| (怨) ↓恨み〔ひどい仕打ち
に対する憎悪、遺恨〕恨み骨

髓に徹する、恨み言、恨みつ

らみ、恨めしい

|| (憾) ↓うらみ〔心残り、不
満、欠点〕公平を欠くうらみ、

拙速のうらみ

うらむ (怨む) ↓恨む

うらやましい ◆羨ましい・うら

やましい

うらやむ ◆羨む・うらやむ

え

え 餌—餌付け

えかき (画描き) ↓絵描き

えさ 餌

えじき 餌食

えっけん 謁見、お会いする、お

目通り、お目にかかる、面会

えびす (恵比須、恵比寿、恵美須、

夷[△]、戎[△]、蛭子) ↓えびす (顔)

〔注〕固有名詞はそれぞれの表
記に従う。

えんか (艶歌) ↓演歌

えんこん 遺恨、恨み、(ル)怨恨

えんぶん 艶聞、浮名

お

おうせい 旺盛、盛ん

おか

|| 丘 (一般用語。小高い土地)

丘を越えて

|| 岡 (限定用語。県名、熟語な

ど) 岡つ引き、岡目八目 (本

来の表記は「傍目八目」、岡

持ち

|| (陸) ↓おか〔陸地〕おか蒸

気、おか釣り

おかづり (陸釣り、岡釣り) ↓お

か釣り

おくする 臆する、おじけづく、

気後れする

おくせつ (憶説) ↓臆説

おくそく (憶測) ↓臆測

おくびよう 臆病

おくめんもない 臆面もない

おぜんだて (御膳立て) ↓お膳立

て

おそれ

|| (怖、惧、虞) ↓恐れ—絶滅

の恐れ

|| 畏れ—神仏への畏れ

おそれる

|| (怖、惧) ↓恐れる (一般用

語。おそろしい、恐縮) 恐れ

入る、恐れ多い、恐れながら、

失敗を恐れるな、死を恐れる、

報復を恐れて逃亡する

|| 畏れる (限定用語。かしこま

る、畏敬) 神を畏れる、師を

畏れ敬う

〔注〕「おそれ入る、おそれ多

い」などは特に畏敬の念を表

す場合は「畏」を使う。迷う

場合は「恐」か仮名書き。

おとさた ◆音沙汰・音さた

おぼれる 溺れる

おりづる 折り鶴

おれ 俺

おんねん 怨念、遺恨、恨み

か

かあさん ㊦母さん—お母さん

かいきやく (諧諷) ↓◆滑稽・こ

つけい、(気の利いた) 冗談、

ユーモア

がいこつ 骸骨

かいしょ 楷書

かいそう (潰走) ↓敗走

かいちよう 諧調、ハーモニ

〔注〕「階調」は、グラデーシ

ヨンの意。

かいまみる 垣間見る

〔注〕「垣間見せる」「垣間聞く」

は誤用。

かいめつ (潰滅) ↓◎壊滅

かいよう 潰瘍—胃潰瘍

かいらん (潰乱) ↓◎壊乱

がかい 崩れる、崩壊、(ル)瓦解

かかわる (拘わる、係わる) ↓関

わる

〔注〕「〜にもかかわらず」は

仮名書き。

かき 柿―渋柿、干し柿

かぎ

鍵〔キー。差し錠を開け閉めする金具〕鍵穴、鍵を掛ける、事件の鍵を握る、問題を解く鍵

〔鉤〕↓かぎ〔フック。先が曲がった金具〕かぎ裂き、かぎ針

かく

書く〔字や文を〕記事を書く、行書で書く、小説を書く、日記を書く

〔画〕↓描く〔絵や図を〕油絵を描く、絵描き、絵に描いた餅、絵を描き直す、地図を描く、漫画を描く

かぐ 嗅ぐ

かく ①顎〔関節〕

かくしゅ〔鶴首〕↓鶴首〔して待つ〕

かくせい 覚醒、自覚、目覚め

〔注〕法律名は「覚せい剤取締法」。

がけ 崖―崖崩れ、崖下
がけつぶち〔崖つ淵〕↓崖つ縁・崖つぶち

かける

懸ける〔託す、願う、勝者に与える〕命懸け、願を懸ける、賞金・賞品を懸ける〔懸賞〕、人生を懸ける、望みを懸ける

賭ける〔ばくち〕賭け金、賭け事、賭けに勝つ、危険な賭け、金品を賭ける

かこ 籠

かこく 過酷、厳しい、むごい

〔注〕特にむごさ、無慈悲なさまを強調したい意では「苛酷」も。

かし ①河岸―魚河岸
かし ②鍛冶―刀鍛冶

かしこまる〔畏まる〕↓かしこまる―かしこまって意見を言う、かしこまりました

かしよ〔個所〕↓箇所

〔注〕「数カ所」「数か所」、「三カ所」「三か所」など助数詞として使う場合は仮名書き。

がじよう 牙城、本拠
かじようがき〔個条書き〕↓箇条書き
かせいソーダ〔苛性曹達〕↓カセイソーダ

イソーダ

〔注〕「水酸化ナトリウム」の工業製品としての慣用名。

かたず ④固唾

かつさい 喝采

かつとう 葛藤、争い、紛争、も

め事

かなめ 要

かぶき 歌舞伎

がべい 画餅―「がへい」とも、

あだ、徒勞、無効、無駄

かま

㊦釜〔生活用具など〕後釜、同

じ釜の飯、釜飯、茶釜、電気

釜、風呂釜

㊦窯〔焼き物などを作る設備〕

窯元、炭焼き窯、登り窯

㊦(缶) ↓かま〔ボイラーなど〕

蒸気機関車のかま

かま 鎌―鎌首、草刈り鎌

かめ 亀―亀の甲より年の功

からめる

㊦絡める〔巻き付ける、結び付

ける〕足を絡めた攻撃

㊦(搦) ↓からめる〔縛り付け

る〕からめ手、からめ捕る、

がんじがらめ

がらん (伽藍) ↓寺院、仏閣、伽

藍

がれき (瓦礫) ↓がれき

かれつ 苛烈、激烈

かわら 瓦―瓦ぶき、瓦屋根

かんがみる 鑑みる

がんぐ 玩具、おもちゃ

かんげき (一瞬の) 隙、隙間、

不和、溝、㊦間隙

かんじん (肝腎) ↓㊦肝心

がんとん 元旦

かななづき 神無月

かんぺき (完璧) ↓完璧

がんみ (翫味、含味) ↓玩味

がんめい (頑冥) ↓頑迷

かんめん (干麵) ↓乾麵

かんろく (貫禄) ↓㊦特貫禄

き

きぐ (危虞) ↓危惧、危ぶむ、恐

れ、懸念、心配、不安

きこ 騎虎―騎虎の勢い

ぎじばり (擬餌鉤) ↓擬餌針

きずな (絆) ↓絆

きそん (棄損) ↓損傷、破損、㊦

毀損

きつすい 生粹

きば 牙

きまじめ 生真面目

きもいり (肝入り) ↓肝煎り

きゆうかく 嗅覚

きゆうし 臼歯

きゆうす 急須

ぎゆうどん 牛丼

きようこつ (頬骨) ↓頬骨きようこつ

きようそく (脇息) ↓脇息きようそく

きる

|| (伐・截、剪) ↓切る (一般用語) 縁を切る、期限を切る、首を切る (解雇)、たんかを切る、電源を切る、ナイフで首などを切られる、野菜を切る

|| 斬る (限定用語) 悪徳商法を斬る (強く批判する)、一刀

の下に敵を斬る、首を斬る

(斬首)、世相を斬る

[注] 迷う場合は「切る」を使う。

きれつ 亀裂

きんき 錦旗

きんこ (禁固) ↓禁錮

きんさ 僅差、小差

きんしたまご (金糸卵) ↓統錦糸卵

卵

きんしゆ 筋腫

きんしゆう 錦秋

きんしょう 僅少、少し

く

くし 串—串刺し、串焼き、玉串

くず 葛—葛湯

くま 熊—穴熊 (将棋)。動物名は

原則片仮名書き、熊手

くらやみ 暗闇

ぐろう 侮る、からかう、ばかにする、(ル)愚弄

け

けいがいか 形骸化、形式化、空洞化

洞化

けいこ ◆稽古・けいこ

けいべつ 軽蔑

けた 桁—桁違い、橋桁、一桁

けっかい (決潰) ↓◎決壊

けっこん 血痕

けづめ (距) ↓蹴爪

ける 蹴る—蹴落とす、蹴散らす、蹴破る

蹴破る

〔注〕「足蹴」は読みにくいので「足げ」と仮名書きも。

げんこつ (拳骨) ↓げんこつ

けんじゅう 拳銃、ピストル

げんそく 舷側

けんそん 謙遜、控えめ

けんばん 鍵盤

けんぼう 拳法

こ

ごい 語類、言葉、(ル)語彙

〔注〕「語彙」は「ある範囲において使われる単語の総体、

集まり」のこと。「豊富な語

彙」などを使い、単語の使い

方の間違いを指して「その語

彙の使い方はおかしい」とは

言わない。文意によっては

「ボキャブラリー」などに言

い換えてもよい。

こいき 小粋

こう

〓 請う (一般用語) 案内を請う、

許可を請う、請われて出馬す

る、紹介を請う

〓 乞う (限定用語。名詞形に

も) 雨乞い、いとま乞い、命

乞い、乞うご期待、慈悲を乞

う

こういん (拘引) ↓勾引 (状)

〔法律用語〕

〔注〕一般には「連行する(さ

れる)」「連れていく(いかれ

る)」とし、無理やり連れて

いかれる意では「拘引」も。

こうがい 梗概、粗筋、あらまし、

概要、大要

ごうがん 傲岸、居丈高、横柄、

高慢、尊大

こうさい (虹彩) ↓虹彩—虹彩炎

こうじ 好餌 (えじき、おとり)

悪徳商人の好餌になる

こうじょうせん 甲状腺

こうた 小唄

こうち 巧緻、巧妙、精巧

こうとう 喉頭 (がん)

こうとうむけい 荒唐無稽

こうばい 勾配

こうはん (広汎) ↓◎広範

〔注〕「広汎性発達障害」など

の病名は別。

ごうまん 傲慢、横柄、おごり、

高慢

こうもん (肛門) ↓特肛門

こうりゆう・こうち

|| 勾留 (判決が確定するまでの

間、容疑者や被告の身柄を拘

禁すること) 勾留期間の延長、

勾留質問、勾留状、勾留理由

開示、未決勾留

|| 拘留 (三十日未満の最も軽い

自由刑。主として軽犯罪に)

二十日の拘留に処せられる

|| 拘置 (刑の言い渡しを受けた

者を拘禁すること)

〔注〕外国の事件関係では「拘

束」を用いる。

こかん 股間

こかんせつ 股関節

こけつ 虎穴

ここう 虎口 (を脱する)

こさつ 古寺、(ル)古刹

こじ (慣)居士—一言居士

こすう (箇)数 ↓個数

こたえる

|| 答える (返答、返事) 口答え、

質問に答える、正確に答える、

呼べば答える

|| 応える (反応、応じる) 歓呼

に答える、期待に応える、手

応え、菌応え、旗を振って応

える、見応え、要請に応える

|| (堪) ↓こたえる (堪える、

我慢する) こたえられない味、

持ちこたえる

〔注〕「寒さが身にこたえる」

「胸にこたえる」「骨身にこた

える」などは「応える」が当

てられるが、仮名書きが望ま

しい。

こっけい ◆滑稽・こっけい

こぶし 拳—握り拳

こべつ

|| (箇)別 ↓個別 (一つ一つ、

一人一人) 個別交渉、個別指

導、個別に話し合う

|| 戸別 (一軒一軒、各戸) 戸別

配達、戸別訪問 (選挙運動な

ど)

こま 駒—駒組み、駒不足、持ち

駒、若駒

こむ

|| 込む (入り組む、込み入る、

連用形に付いて複合語を作

る) 仕事を立て込む、手が込

む、煮込む、吹き込む、負け

が込む

混む〔混雑する〕混み合う店

内、電車が混む、人混み

こめる〔籠める〕↓込める

こもる〔込もる、隠る〕↓◆籠もる・こもる

〔注〕「口こもる」など表記習慣により仮名書きも活用する。

ころ 頃―子供の頃、頃合い

〔注〕接尾語的に使う「ごろ」は、読みやすい仮名書きも。

ごろ (語路) ↓語呂

こわき 小脇

こわす (毀す) ↓壊す―壊れる

こんせき 痕跡

わ

采〔とる、彩り、姿〕喝采、

采配、采を取る〔指揮をする〕、納采、風采

〔賽、采〕↓さい〔さいころ〕

さいの目、さいは投げられた

さいはい 采配

さかのほる (溯る、逆上る) ↓◆

遡る・さかのほる

さく 柵―柵越え、鉄柵

さげすむ (貶む、下げすむ) ↓◆

蔑む・さげすむ

さげん 左舷

ざしょう 挫傷

ざせつ (座折) ↓挫折

さた ◆沙汰・さた

さつき (價)五月―五月晴れ

さつそう (颯爽) ↓さつそう

さばく (沙漠) ↓砂漠

さめる・さます

冷める・冷ます〔冷える、温度が下がる〕愛情・興奮・ほとほりが冷める、熱を冷ます、湯冷めする

覚める・覚ます〔睡眠・迷いなどから戻る〕太平の眠りを覚ます、寢覚めが悪い、麻酔から覚める、迷いを覚ます、目が覚める、夢から覚める

〔醒〕↓さめる・さます〔酔い・興味がなくなる〕興ざめ、酔いがさめる

さわやか 爽やか

ざんがい 残骸

さんかくきん 三角巾

さんく (價)産駒〔競馬〕

さんけい 参詣、お参り、参拝

ざんさつ

〓 斬殺〔きり殺す〕 刀で斬殺する

〓 惨殺〔むごたらしく殺す〕 一家四人が惨殺される

ざんしん 斬新、目新しい
ざんまい 三昧、無我の境

〔注〕「読書・念仏ざんまい」など熱中する意味で接尾語的に使う場合は仮名書きも。

ざんろく 山麓

し

しい 勝手、気まま、(ル)恣意

じうた 地唄

しえん 恨み、私恨、私憤、(ル)私

怨

しか 鹿

しが 歯牙(にもかけない)

しがい 死骸、死体

じかせんえん 耳下腺炎

しかつめらしい (鹿爪らしい) ↓

しかつめらしい

しかる 叱る

しこ 四股―四股を踏む

〔注〕「四股名、醜名」は「しこ名」と仮名書きに。

じちよう

〓 自重〔軽はずみな行動を慎む〕 隠忍自重、ご多忙の折ご

自重ください、自重自戒

〓 自嘲〔自分で自分をあざける〕 自嘲気味に吐露する、自

嘲するような薄笑い

しっしん (湿疹) ↓ 湿疹

しっせい

〓 叱正〔しかりただす〕 叱正のほどを

〓 叱声〔しかる声・言葉〕 叱声
が飛ぶ

しっせき 叱責

しっそう 失踪、失跡、行方不明

しつと 嫉妬

しつぽ (慣)尻尾

しにせ (慣)老舗

しはん (慣)屍斑 ↓ 死斑

しはん 紫斑

しやへい 覆う、遮る、(ル)遮蔽

しゆうち 羞恥(心)、恥じらい、

恥ずかしさ、はにかみ

じゆうてん 詰める、補充、満た

す、(ル)充填

しゆうび 愁眉(を開く)

じゅくし (熟柿) ↓熟柿じゅくし

じゅくどう 縮瞳

じゅそ (呪詛)[△] ↓呪い

じゅつらん (ル)出藍 (の誉れ)

じゅばく 呪縛、束縛、とらわれる

じゅもん 呪文、まじない (言

葉・文句)

しゅよう 腫瘍、おでき、腫れ物

しゅん 旬—旬の魚・野菜

しゅうかい (哨戒) ↓哨戒

しゅうけい 憧れ、(ル)憧憬

〔注〕「どうけい」は慣用読み。

しゅうちゅう 焼酎

しゅうび 焦眉 (の急)

じょうり 浄瑠璃

じょうれい

〓 条例 (地方自治体の制定する

規則) 東京都公安条例

〓 条令 (箇条書きの法令) 法律
の条令

しよくじ 食餌—小動物の食餌実

験

しよくじりようほう (食餌療法)

↓食事療法

〔注〕医療関係では「食餌療

法」を使う場合もある。

しよせん ◆所詮・しよせん

しよほうせん (処方箋) ↓処方箋

しり 尻—尻込み、尻拭い、尻目、

目尻

しん

〓 心 (こころ、精神、慣用の熟

語) 核心、心から納得する、

心棒、灯心、炬心

〓 芯 (ものの中央、中心) 鉛

筆・リング・ろうそく・パツ

トの芯、体の芯まで冷える

〔注〕心を「こころ」と読まれ

るのを避けるためや、使い分

けに迷う場合は仮名書きも。

じん 腎—腎移植、腎バンク

しんきんこうそく 心筋梗塞

しんこく

〓 申告 (官公庁・上司に申し出

る) 確定申告、所得を申告す

る、申告漏れ

〓 親告 (被害者側が訴える) 名

誉毀損罪きざんなどの親告罪

しんし 真剣、誠実、真面目、(ル)

真摯

しんせき 親戚

じんぞう 腎臓

しんちよく 進行、進展、(ル)進捗

(状況・率)

しんぼく 親睦

じんましん (蕁麻疹) ↓じんまし

ん

しんらつ 辛口(の)、痛烈、手

厳しい、容赦ない、(ル)辛辣

す

すいたい 推挙、(ル)推戴

すえき 須恵器

ずがいこつ 頭蓋骨―「とうがい

こつ」とも

すき 隙―油断も隙もない

すきま (透き間) ↓(統)隙間

ずきん 頭巾

すそ 裾―お裾分け、裾野、山裾

すべて (凡て、総て) ↓全て―事

件は全て解決した

〔注〕表記習慣により仮名書き

も。

すんげき 寸暇、(ル)寸隙

せ

せいさん 陰惨、むごたらしい、

(ル)凄惨

せいぜつ すさまじい、壮絶、想

像を絶する、ものすごい、(ル)

凄絶

せいそう (凄愴、悽愴) ↓痛まし

い、すさまじい、悲惨、むご

たらしい

せいち 精緻、きちんとした、精

巧、精密

せいとん 整頓

せいらん (青嵐) ↓青嵐―「あお

あらし」とも

せきずい 脊椎

せきつい 脊椎

せたけ (脊丈) ↓背丈

せつくつ 石窟

せつな 一瞬、瞬間、(ル)刹那(主

義・的)

せん 腺―汗腺、胸腺、前立腺、

乳腺、涙腺

ぜん 膳―一膳飯、お膳立て、陰

膳、配膳

ぜんかい (全潰) ↓◎全壊

せんこう (選衡、銓衡、詮考) ↓

◎選考

〔注〕「金利選好」「選好度調

査」などは別。

せんさく (穿鑿) ↓詮索、細かく

調べる、探る

せんじょうこん (旋条痕、綫条痕) ↓線条痕、ライフル痕

せんしょうせん (前哨戦) ↓前哨戦

せんじる 煎じる

せんちゃ 煎茶

せんてつ (銑鉄) ↓特銑鉄

せんばづる 千羽鶴

せんびょうしつ 腺病質

せんべい ◆煎餅・せんべい

せんぼう 羨望

ぜんぼう 全貌、全体像、全容

せんりつ 戦慄、恐るべき、おの

のく、衝撃、震え上がる

ぜんりつせん 前立腺

そ

そうかい 爽快—気分爽快、爽快

な目覚め

〔注〕肉体的に快い、元気にあ

ふれている意では「壮快」も。

ぞうきん 雑巾

ぞうくつ 巢窟、温床、(悪党の)

すみか、根城

ぞうげ 象牙

ぞうけい 造詣、学識、たしなみ、

知識

そうしん (ル)瘦身(術)

そうそふ 曾祖父

そうそほ 曾祖母

そうそん 曾孫

そうてん (ル)装填

そうへき (双壁) ↓双壁

そうめん (素麺) ↓そうめん

そうりよ 僧侶

そきゅう ◆遡る・さかのぼる、

(ル)遡及

そげき 狙撃(兵)

そこう ◆遡る・さかのぼる、(ル)

遡行

〔注〕船に限った場合は「(ル)遡

航」も。

そじょう ◆遡る・さかのぼる、

(ル)遡上

そせい (蘇生) ↓特蘇生

そで 袖—長袖、振り袖

そんしよく 遜色、引け目、見劣

り

た

たいかん (ル)戴冠 (式)

たいきよくけん 太極拳

たいせき 堆積

たいひ 堆肥

たいぼう (ル)戴帽 (式)

だえき 唾液

だき 唾棄、忌み嫌う、嫌悪、吐

き捨てる

たぐい (比い) ↓類似―類似まれ

な才能

たちこめる (立ち籠める) ↓立ち

込める

だつきゅう 脱臼

たてこむ (立て混む、建て込む)

↓立て込む

たてこもる (立て込む) ↓◆立

て籠もる・立てこもる

たとえ・たとえる (譬、喩) ↓例

え・例える―例え話

だれ 誰

だんがい 断崖

だんこん 弾痕

だんな 旦那―旦那衆、若旦那

〔注〕文脈により仮名書きも。

ち

ちみつ 緻密、きめ細かい、細密、

精密、綿密

ちゅうハイ 酎ハイ

ちようしょう 嘲笑、冷笑

ちようじり 帳尻

ちようだい ◆頂戴・ちようだい

―お叱りを頂戴する、おやつ

をちようだい

ちようふ 貼付

〔注〕「てんぷ」は慣用読み。

「貼り付ける」など分かりや

すい表現も活用する。

つ

ついえる

|| 費える〔無駄に使われてなく

なる〕いたずらに歳月が費え

る、浪費で財産が費える

|| (潰) ↓ついえる〔崩れ壊れ

る〕計画も夢とついでた、野

望がついえる

つかんばん 椎間板

つかれる 疲れる―気疲れ

つくる

|| 作る〔一般用語。こしらえる。

主として規模の小さいものに〕生き・生け作り、形作る、

規則を作る、記録を作る、米

作り、鮮魚を刺し身に作る、

作り話、作り笑い、罪作り、

手作り、人形を作る、文を作

る

|| 造る〔造成、営む。主として

規模の大きいものに〕石造り、

国造り、財産造り、酒を造る、

数寄屋造り、宅地を造る、造

り酒屋、庭園を造る、荷造り、

船を造る、みそを造る、寄せ

木造り

|| 創る〔限定用語。創造、独創

を強調する場合〕新しい文化

を創る

〔注〕「街・町づくり」「人づく

り」など使い分けに迷う場合

は仮名書きにする。

つたない 拙い

つづらおり〔葛折り、九十九折

り〕↓つづら折り

つとめる・つとまる

|| 務める・務まる〔任務〕議長

の役が務まる、主役を務める、

進行係を務める、土俵を務め

る

|| 勤める・勤まる〔勤労〕朝の

お勤め、社員が勤まる、会

社に勤める、勤め先、勤め人

つば 唾―唾を付ける、天に唾す

る

つぶす 潰す―潰れる

つま… 爪先、爪はじき、爪弾く

つめ 爪―爪痕、爪切り

つや 艶―色艶、艶っぽい、艶や

か

〔注〕「つや消し」「つや出し」

など光沢の意味に用いる場合

は仮名書きも。

つる 鶴―千羽鶴

て

ていかん 諦観、悟り、達観

ていとん 停顿

ていねん 諦念、悟り

できあい 溺愛

できし 溺死、水死

てっけん 鉄拳

てぬぐい 手拭い

てんどん 天井

てんぷ

〓添付〔付け添える〕メールの

添付ファイル

〓貼付〔のりなどで貼り付ける〕

〓切手を貼付する

〔注〕「貼付」の本来の読みは

「ちようふ」。「貼り付ける」

など分かりやすい表現も活用

する。

と

とうかい (倒潰) ↓◎倒壊

とうくつ 洞窟

とうけい (ル)憧憬

〔注〕本来の読みは「しょうけ

い」。「とうけい」は慣用読み。

どうこう 瞳孔

とうさん (◎)父さん—お父さん

とうた (淘汰[△]) ↓整理、選別、

(自然)淘汰^{うた}

とうや 鍛錬、錬成、(ル)陶冶

とうろう 灯籠

どくが 毒牙

とじこもる (閉じ込める) ↓◆閉

じ籠もる・閉じこもる

としゆくけん 徒手空拳

とする 賭する

とち (栃、橡[△]) ↓トチ〔植物〕—と

ち餅

〔注〕「栃」は固有名詞のみに

使う。

とば 賭場

とばく 賭博

とめそで 留め袖

とら 虎—虎の巻

とらえる

〓捕らえる〔取り押さえる〕獲

物を捕らえる、犯人を捕らえ

る

〓捉える〔つかむ、把握〕意味

を捉える、心を捉える、文章

の要点を捉える、問題の捉え

方が難しい、リーダーが台風

の目を捉える

：どん うな井、カツ井、天井

とんざ 頓挫

とんし 頓死

とんち (頓智[△]) ↓頓知

とんちやく 頓着

とんちんかん (頓珍漢) ↓とんち

んかん

とんぶく 頓服

どんぶり 井—井勘定、井物

どんよく 貪欲、飽くことのない、
強欲、欲張り

な

なえる ◆萎える・なえる

ながうた 長唄

なきがら (亡骸) ↓亡きがら

なし 梨

なぞ 謎―謎解き、謎めく

〔注〕「なぞなぞ(遊び)」は仮
名書き。

なべ 鍋―鍋物、鍋焼きうどん、

寄せ鍋

なまづめ 生爪

ならく 奈落

に

におい・におう

〓 匂い・匂う〔主によいにおい〕梅の花の匂い、香水がほのかに匂う

〓 臭い・臭う〔主に不快なおい〕魚の腐った臭い、生ごみが臭う

〔注〕「辞任・出馬の意向をにおわす」など「ほのめかす」意味で用いる場合や、「強い香水・たばこのにおい」などよい香りか不快なおいかが判別できない場合、「臭(くさ)いにおい」など漢字書きでは紛らわしい場合は、仮名書きにする。

にくしゅ 肉腫

にじ 虹

にしき 錦―錦絵、錦を飾る

にしきのみはた (錦の御旗) ↓慣

錦の御旗

ぬ

ぬぐう 拭う―口を拭う、拭いき

れない 疑念

ね

ねたむ (嫉む) ↓◆妬む・ねたむ

ねらいうち

〓 狙い打ち〔主に野球〕カーブ

を狙い打ち

〓 狙い撃ち〔主に射撃、比喩的

にも」弱者を狙い撃ち、銃で
狙い撃ち

ねらう 狙う

ねんざ 捻挫

ねんしゅつ 捻出、工面、算段、

ひねり出す

の

のうこうそく 脳梗塞

のうせきずい 脳脊髄

のど (咽、*咽・喉) ↓喉—喉元

〔注〕「のど自慢」などは仮名

書きが望ましい。

ののしる ◆罵る・ののしる

のばす・のびる・のべる

|| 延ばす・延びる・延べる〔広

がる、時間を引きのばす、遅

れる〕会期が延びる、金の延
べ棒、航空路が延びる、出発

を延ばす、地下鉄が郊外に延

びる、遠くまで足を延ばす、

日限が延びる、延び延びにな

る、延べ金、延べ人員、延べ

日数、延べ払い、梅雨前線が

延びる、間延び

|| 伸ばす・伸びる・伸べる〔縮

の対語。背のびする、まっす

ぐになる〕学力が伸びる、髪

を伸ばす、記録を伸ばす、草

木が伸びる、ぐったり伸びる、

経済の伸び率、才能を伸ばす、

差し伸べる、身長が伸びる、

救いの手を伸べる、勢力を伸

ばす、手足を伸ばす、手を伸

べて助け起こす、伸び縮み、

伸び伸びと育つ、日脚が伸び
る

〔注〕使い分けに迷う場合は仮

名書きにする。

のろう (詛う) ↓呪う—死者の呪

い、世を呪う

は

はい (胚) ↓胚—クローン胚、胚

性幹細胞

はいが (胚芽) ↓胚芽 (米)

はいかい 俳諧

はいき 廃棄

はいぜん 配膳

はいたい (胚胎) ↓胚胎、兆す、

はらむ、根ざす

はうた 端唄

ばか (莫迦[△]、馬鹿) ↓ばか

はがす 剥がす―剥ぐ、剥げる、

剥がれる

はき (破毀) ↓◎破棄

はぐ

|| 剥ぐ〔むきとる、奪い取る〕

追い剥ぎ、剥ぎ取る

|| (接・綴) ↓はぐ〔つぎ合わせ

せる〕継ぎはぎ、はぎ合わせ

る

はぐくむ 育む

はくせい 剝製

はくだつ

|| 剥奪〔力ずくで取り上げる〕

公民権を剥奪する

|| 剥脱〔はぎ落とす、はげ落ち

る〕壁のタイルを剥脱する、

金箔^{きんぱく}が剥脱する

はくび 白眉

はくらく 剝落

はくり 剝離

はげる

|| 剥げる〔取れて離れる〕塗り

が剥げる

|| (禿[△]) ↓はげる〔抜け落ちる〕

はげ山

はし 箸―箸遣い、箸にも棒にも

掛からない、塗り箸、割り箸

ばせい 罵声〔を浴びせる〕

はたん 破綻、行き詰まる、失敗、

つまずき、破局

はち 蜂―蜂の巣をつついたよう、

蜂蜜

はっしん (発疹) ↓発疹―「ほっ

しん」とも

はつもうで 初詣

〔注〕「熊野詣で」など他の

「〜詣で」には送り仮名を付

ける。

ばとう 罵倒

はば (巾) ↓幅―幅跳び、幅寄せ、

幅を利かせる

はやい・はやまる・はやめる

|| 早い・早まる・早める〔主と

して時間関係〕足早に立ち去

る、開会が早まる、気が早い、

時期が早すぎる、時刻を早め

る、出発時間が早まる、順番

が早まる、手っ取り早い、手

早い、投票の出足が早い、早

変わり、早口、早死に、早手

回し、早々と、早まった行動、

早回り競争、早めに来る、早

業、耳が早い、矢継ぎ早

|| 速い・速まる・速める〔主として速度関係〕回転のスピードが速まる、決断が速い、呼吸が速い、球が速い、出足が速い車、テンポが速い、流れが速くなる、速足、速い動作、船脚が速まる、歩度を速める、脈拍が速まる

ばり (罵詈) ↓ 悪口、雑言、◆ 罵り・ののしり

はる

|| 張る〔一般用語。取り付ける、広がる〕氷が張る、策略を張り巡らす、タイヤ張りの壁、テントを張る、根が張る、張りのある声

|| 貼る〔限定用語。のりなどで付ける、付着〕切手を貼る、

貼り薬、ポスターを接着剤で貼る

〔注〕「タイルをはる」など、取り付ける意では「張」を使うが、貼付する工法を強調したい場合などは「貼」でも。

「切りばり・はり替える・はり紙・はり出す・はり付ける・目ばり」など、〈接着剤で〉の場合は「貼」、迷ったときは「張」を使う。

はれる 腫れる―腫らす、足が腫れる、泣き腫らす、寝不足で目を腫らす、腫れ物

ばんかい (挽回) ↓ 特 挽回、回復、立て直し、盛り返し

はんでん 斑点

はんもん 斑紋

はんよう (ル) 汎用

はんらん 汎濫、あふれ返る、あふれ出る、あふれる、横行

はんりよ 伴侶

はんろん (ル) 汎論

ひ

ひきこもる ◆ 引き籠もる・引きこもる

ひざ ◆ 膝・ひざ

ひざもと (膝下) ↓ ◆ 統 膝元・ひざ元

ひじ (肱、臂) ↓ ◆ 肘・ひじ

ひしもち (菱餅) ↓ ひし餅

ひつす 必須、必修、不可欠

ひとごみ (人込み) ↓ 人混み

ひとみ 瞳

びぼう (弥縫) ↓一時しのぎ、取

り繕う、間に合わせ

びぼう 美貌、美形、美人

びもく 眉目

ひゆ (譬喩) ↓比喻

ひよく 肥えた、豊かな、(ル)肥沃

びんせん 便箋

ふ

ふ (斑) ↓ふ [まだら] ふ入りの

花

ふうしん (風疹) ↓風疹

ふうぼう 風貌、容姿

ふきん 布巾

ふく 拭く—汗を拭く、拭き取る、

窓を拭く

ふさぐ 塞ぐ—塞がる、出口を塞

ぐ

〔注〕「ふさぎ込む」などは仮

名書きも。

ぶさた ◆無沙汰・ぶさた

ふじ 藤—藤色、藤棚

ふしゆ 浮腫、むくみ

ふせん (附箋) ↓付箋

ふそん 不遜、横柄、思い上がり、

尊大、生意気

ふた ◆蓋・ふた

ふつしよく 払拭、一掃、取り除

く、拭いきる、拭い去る

ふなうた (舟唄) ↓舟歌

ぶべつ 侮蔑

ふほう 訃報

ふまじめ 不真面目

ふもと 麓

ふりそで 振り袖

ふる 振る—振れる、磁石の針が

振れる、一振りの刀、振り替

える、振り子、振り込み、振

り出す、木刀の素振り、身の

振り方、よくバットが振れて

いる、割り振る

ふる 風呂

ふるしき 風呂敷

へ

へいそく (ル)閉塞

べつし 蔑視

へんくつ (偏窟) ↓偏屈—偏屈者

へんぼう 変貌、様変わり、変容

ほ

ほいく (哺育) ↓◎保育―保育

(所・園)、保育器、保育士

〔注〕「飲食物や餌を与えて育てる」意では「哺育」も。

ほうかい (崩潰) ↓◎崩壊

ほうき 蜂起

ほうちよう (膨脹) ↓学膨張

ほうる (抛る) ↓放る―放り込む

ほお ◆頬・ほお

ほか

|| 外〔範圍の外〕思いの外に到着が早かった、恋は思案の外、もつての外

|| 他〔それ以外〕この他に用意

するものは、他に方法がない、他の人にも尋ねる

〔注〕一般的には仮名書きも使

われている。使い分けで迷うときなどは仮名書きも活用する。

ほころびる 綻びる

ほしのままに (欲しいままに、擅に、恣に、縦に) ↓ほし

まに

ほしがき 干し柿

ほしよう (歩哨) ↓歩哨

ほそく

|| 補足〔不足を補う〕補足事項、補足して説明する

|| 捕捉〔とらえる〕意図を捕捉する、賊を捕捉した、租税捕捉率

ぼつこ

ぼつこ 勃興、興隆、台頭

ぼつこん 墨痕

ほっしん (発疹) ↓発疹―「はっ

しん」とも

ぼつぱつ 勃発、突発、発生

ほてん 穴埋め、補充、(ル)補填

ほにゆう 哺乳 (動物・瓶・類)

ほほえむ (微笑む、頬笑む) ↓ほ

ほえむ

ほんろう 踊らされる、手玉に取る、(ル)翻弄

ま

まくら 枕―歌枕、空気枕、枕木、枕経、夢枕

まくらもと (枕許) ↓枕元

まごうた 馬子唄

まじない (呪い) ↓まじない

まじめ (真面目) ↓生真面目、不

まじめ (真面目) ↓生真面目、不

真面目

〔注〕「ありのままの姿」の意の読みは「しんめんもく・しんめんぼく」。

ましん（麻疹） ↓麻疹（同義の「はしか」は仮名書き）

また

Ⅱ（又、[△]胯） ↓股（二つに分かれる所、主に名詞）内股、大股、世界を股に掛ける、二股ソケット・二股道（三つまた・四つまた）などの本来の表記は「又」、股上、股裂き、股下、股擦れ、股旅

Ⅱ（又、[△]亦、復） ↓また（主に副詞・接続詞・接頭語）また貸し、また聞き、また来ます、またとない、またの機会、ま

たの日、または、またもや

まだら（斑） ↓まだら—まだら模様

様

まぶた（目蓋、眼[△]瞼、[△]瞼） ↓まぶた

た

まゆ 眉—眉毛、眉唾

み

みけん 眉間

みごたえ 見応え

みぞう 未曾有、かつてない、空前

前

みだら ◆淫ら・みだら

みつ 蜜—蜜月、蜜蜂、蜜豆

みょうり 冥利

む

むく（剝く） ↓むく—感情をむき出しにする、牙をむく、目を

むく

むく

むさぼる ◆貪る・むさぼる

むつまじい（睦[△]まじい） ↓むつま

じい

むとんちやく 無頓着

むやみ（無闇） ↓むやみ

め

めいおうせい 冥王星

めいさつ 名高い寺、由緒ある寺、

冥利

めいど（冥途） ↓冥土

めいふく 冥福

めいよきそん (名誉棄損) ↓ 名誉

① 毀損

めいりょう 明瞭

めくばせ 目配せ

めじり (眦) ↓ 目尻

めん 麵—カップ麵、麵棒、麵類、

冷麵

〔注〕「そうめん」素麵「ラー

メン」拉麵」は仮名書き。

めんば 面罵

めんよう 面妖

も

もうでる 詣でる—神社・寺に詣

でる、初詣(他の「詣で」

には送り仮名を付ける)

もち 餅—絵に描いた餅、鏡餅、

草餅、餅は餅屋、焼き餅

〔注〕嫉妬の意の「焼きもち」

や「もち肌」など漢字表記に

違和感があるものは仮名書き

も活用する。

もちごま 持ち駒

もちごめ (糯米) ↓ もち米

もちつき (餅搗き) ↓ 餅つき

もてあそぶ (玩ぶ、持て遊ぶ) ↓

◆ 弄ぶ・もてあそぶ

や

やかた

〓 館 (邸宅) 白亜の館

〓 屋形 (屋根の形の覆い) 屋形

船

〔注〕邸宅の主の敬称は「お館

様・お屋形様」の両様がある。

やきん ① 冶金

やくじりょうほう (薬事療法) ↓

薬餌療法

やせる 痩せる

やますそ 山裾

やまと ① 大和—大和絵

やみ 闇—闇市、闇討ち、闇取引、

闇値、闇夜

やみくも (闇雲) ↓ やみくも

やよい ① 弥生—弥生時代、弥生

(式) 土器

ゆ

ゆううつ 憂鬱

ゆうしゅつ 湧出

ゆうすい 湧水

ゆだねる 委ねる

よ

ようえん 妖艶

ようかい 妖怪

ようき 妖気

ようさい (ル)要塞

ようじゅつ 妖術

ようせい 妖精

ようてい 要諦、要、眼目、要点

ようほう 養蜂(業)

ようぼう 容貌、顔かたち、顔立ち、容姿

よくど 肥えた土地、(ル)沃土

よくや 豊かな平野、(ル)沃野

よせなべ 寄せ鍋

よなべ (夜鍋、夜業) ↓夜なべ

ら

ラーメン (拉麵) ↓ラーメン

らち 拉致

らつわん 腕利き、怪腕、すご腕、敏腕、(ル)辣腕

らん (濫) ↓乱 | 乱獲、乱造、乱

伐、乱発、乱費、乱用、乱立

〔注〕「濫」は「氾濫」の場合のみ使う。

り

りえん (梨園) ↓歌舞伎界、演劇

界、梨園 りえん

りくつ (理窟) ↓◎理屈 | 理屈に

合わない、理屈っぽい

りつぜん 凛然、色を失う、恐れ

おののく、ぞっとする、血の気が引く

りょうしゅう 幹部、実力者、(ル)

領袖

リンパせん (淋巴腺) ↓リンパ節

〔注〕「リンパ腺」は旧称。

る

るいせん 涙腺 | 涙腺神経

れ

れんが (煉瓦) ↓れんが

ろ

ろうじょう 籠城

ろうらく 籠絡、言いくるめる、
口説き落とす、丸め込む
ろれつ (呂律) ↓ろれつーろれつ
が回らない

わ

わいろ 賄賂

わき 脇―脇が甘い、脇差し、脇
見、脇道、脇目、脇役、脇を
固める

わく

|| 沸く〔沸騰〕お湯が沸く、議
論が沸く、場内が沸く、人気
が沸く、風呂・観衆を沸かす
|| 湧く〔わき出る〕温泉が湧く、
雲が湧く、実感が湧く、石油
が湧く、拍手が湧く、降って

湧いた災難、勇気が湧く
わずか ◆僅か・わずか
わたくし・わたし 私
わぼく 和陸

2010年「改定常用漢字表」対応

新聞用語集 追補版

定価 100 円（本体 95 円 + 税）

2010年11月18日

社団法人 **日本新聞協会**

東京都千代田区内幸町 2-2-1

日本プレスセンタービル 〒100-8543

電話 (03) 3591-4401 (代表)

© 2010 NIHON SHINBUN KYOKAI

